

韓国での長期滞在を終えて

化学専攻 博士課程1年 福田一貴

2013年12月1日から2014年2月28日までの3ヶ月間に渡り、韓国にあるKAIST (Korea Advanced Institute of Science and Technology) のKim Hak-Sung教授の研究室に滞在した。滞在先の研究室には、抗体のようにターゲットに対して特異的に結合できるタンパク質 Repebody を自在に開発する技術があり、この技術を用いることで自らの研究における問題点を解決することができると考えられる。そこで、滞在先でファージディスプレイ等の実験を指導して頂き、Repebodyを開発するための手法を学ぶことができた。いずれの技術も知識としては知っている一方でなじみが薄いものだったが、実際に経験することで詳細な手順や注意すべき箇所等を身に付けることができた。指導して頂いた技術を日本に持ち帰り、自らの研究に生かせるように取り組む予定である。

研究室に滞在する外国人は他にいなかったため、慣れない環境に戸惑うこともあったが、現地の学生には大変親切に対応して頂いた。研究室の雰囲気は大変良く、現地の学生と自由に研究等について議論することができた。研究を進めていく中でコミュニケーションの重要性を認識すると共に、英語で会話することへのためらいがなくなったことは、今回の滞在において大きな収穫だったと思う。

最後に、長期滞在を快く受け入れて頂いたKim Hak-Sung教授、研究において多くの助言を下された小澤岳昌教授、研究面だけでなく生活面でもお世話になった現地の学生の方々、海外渡航の機会を提供して頂いたALPS関係者の皆様にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



現地の学生の方々との集合写真



キャンパス風景